

「身近な土木を描いてみよう！」図画コンクール 10 年の歩み

土木学会中国支部 正会員 ○増村 浩子
広島大学 正会員 日比野 忠史

1. はじめに

土木に対する正しい認識を子どもたちに伝えることを目的として、2008 年度から「身近な土木を描いてみよう！」図画コンクールを、土木学会中国支部の土木の日の事業として実施している。これは、小中学生に夏休みの課題として、身近な土木を描いて応募する図画コンクールで、2017 年度で 10 回目となり、これまでの経緯や実施状況、作品の変化などについて紹介をする。

2. 目的と経緯・実施状況

次世代を担う子どもたちに身近な土木を描くことにより、普段生活している場所、何気なく見ているものが土木技術に支えられていることを認識し、土木（環境）に親しんでもらうきっかけ作りを目的として実施している。広島大学の日比野准教授が企画し、「土木」に対するイメージが悪化している中、夏休みの課題としての図画コンクールは、子どもだけでなく、母親たちにも「土木」を理解してほしいとの意図でスタートした。第 1 回・第 2 回は、NPO 広島環境サポーターネットワーク（広島市環境サポーター養成講座修了者が任意で集まる団体）に業務委託をしたが、第 3 回から土木学会中国支部事務局で運営をして現在に至っている。1 年間の実施スケジュールは(表 1)に示す通りで、年間を通して活動をしており、事務局職員が運営することでこれまで継続できたと感じるのである。

表 1：実施スケジュール（2017 年度）

3. 広報と応募枚数の推移

本事業を広報する中で、第 1 回から国土交通省中国地方整備局より後援を得ているが、第 3 回より教育委員会からの後援を得たことで、作品の応募枚数が大きく変化をした。(図 1) 現在は順調に応募枚数が伸びているが、当初は広報に苦労してきた。広島環境サポーターネットワークに所属していた筆者は、小学校への出前講座の折、画用紙を持参しては、本事業の趣旨説明をして応募を依頼し、第 1 回は 200 枚、第 2 回は 350

枚を集めたが限界を感じていた。第 3 回より事務局へ運営が移ったのを機に、中国支部の土木の日の主事業とし、教育委員会への後援申請に関して、初回はその地域の幹事が教育委員会を訪れて事業説明や校長会で説明をするなど、幹事会全体で協力を得た。年々後援団体も徐々に増え、現在はチラシ（図 2）に示す通りで、各県の教育委員会をはじめ、県庁所在地の市教育委員会へも広がり、そこからチラシの発送も依頼している。チラシを受け取った小学校は、夏休みの課題表に掲載して児童へ周知するほか、中学校の美術の課題として出されるなどして、2017 年度は、2019 枚の図画が中国 5 県から応募された。作品の多くは学校単位で応募され、9 月の締め切り前には郵送のほか、近隣の学校の先生が放課後に持参されるなどして、事務局にはたくさんの図画が集まった。

4. 審査会

10 月、広島市内の小学校にて、土木学会中国支部の支部長・幹事長をはじめ産学官の幹事メンバーの他、広島県造形教育連盟や広島県・広島市小学校教育研究会図画工作部会に所属する校長先生方にご協力いただき、審査会を実施した。2017 年度の小学生の作品は、空港や駅など家族で出かけた楽しい旅の絵や、現場で活躍する重機や電車を生き生きと描く一方で、中学生は橋や復興作業など、社会基盤と日々の暮らしの関わりを豊かな色彩やユニークなアングルで切り取るなど、審査員が目を奪われる力作ぞろいで、優秀賞 13 点と佳作 51 点を選考した。

5. 優秀賞を掲載したカレンダー

毎年選考される 13 点の優秀作品は、次年のカレンダーとして印刷し、表彰式で優秀賞者に副賞として進呈している。そのほか、参加者全員に記念品（消しゴム）を送付する際に、応募された学校にカレンダーを発送しており、「毎年放送室に飾っています。」と、うれしい報告もあった。カレンダーに印刷することによって

キーワード 図画コンクール 土木の日 土木広報啓発活動 支部活動

連絡先 〒730-0011 広島市中区基町 10 番 3 号広島県自治会館内 (公社)土木学会 TEL082-222-2376

掲示機関が1年間と長く、土木啓発効果も継続すると考えられ、サイズ(A5判)も掲示する場所も取らないコンパクトサイズで、持ち歩きも可能ということで、たくさんの方から支持を得ています。その他、11月18日は「土木の日」と祝日並みに記載をしており、土木学会ならではのカレンダーとも言えよう。

写真1：図画コンクール優秀作品カレンダー10年分

6. 表彰式・展示会

土木の日の11月になると、表彰式・展示会を実施しており、広島市をはじめ各地で開催しています(表1：実施スケジュール参照)。2017年度は、選奨土木遺産認定式が鳥取で実施されたのに合わせて、初めて鳥取市内の商業施設イオンモール鳥取北で、鳥取県の優秀賞者の表彰式と展示を行った。展示に関して、関係者だけでなく、たくさんの方が足を止めて作品に見入っておられ、子どもが「土木」を図画として表わすことで、多くの人々を引き付けるのだと考察した。その他、山口県では、中国電力(株)柳井発電所の見学スペースを借りて展示をしており、土木学会本部、広島県立図書館など期間中合わせて延べ3万人に近い来場者があった。

写真2：2017年度表彰式 写真3：2017年度展示

7. 絵の内容の変化

本コンクールは、身近な土木を描くのが課題である。しかし、子どもたちには、土木そのものが理解できていないのではないかとの疑問もあり、チラシには、「土木ってなあに?」と記載し、「道路や鉄道・港湾・空港・海岸・河川・橋・トンネル・ダム・電気や飲み水など毎日の暮らしに土木の技術が役立っています。災害を防ぎ安全な街を作るのも土木技術に支えられています。便利なだけじゃなく、山や川や海の生き物も守りたい!住みよい街を作るのが土木の役目です。」と解説した。応募された図画を見ると、初期は橋や重機が多くありましたが、新しく建設された第2音戸大橋や新白島駅が完成すると、これらを題材としたたくさんの図画が寄せられ、子どもたちの土木の目線を感じることができた。また、橋・川・憩いの場(人)・鳥・自然・鉄塔・トンネル・電車など街全体を描いており、街全体が土木で成り立っている様子がうかがえるものや、駅の改札前にいる子どもとお母さんが、これから楽しい旅に出かけるシーンを描いている絵など、暮らしの中にある「土木」の存在について理解が深まってきているように感じた。中学生の作品では、橋、ダム、ト

ンネルなど学校で学習した遠近法などの技法を使って、素晴らしい美術作品が寄せられている。こうして様々な分野の絵が集まるようになったのは、それだけ「土木」が身近になり、浸透してきているのではないかと推察する。

図画1：楽しいぼくの町

図画2：ぼくたちみんなのほうふえき

8. 子どもたちへの効果

土木構造物を描くのが課題の図画コンクールだが、子どもたちは、初めに何を題材にしようか、身近な土木は何があるかを検討するだろう。そして題材が決まったら、54cm×38cmの白い画用紙に向かい、思い思いの絵を描き始めることだろう。絵は一瞬で完成する写真と違って、描いている間は画用紙と向き合い、題材の土木構造物と向き合って時間をかけて完成させる。鉄塔を描く場合、詳細に描くためには構造についても考えるし、大きな橋や高速道路を題材にしたら、便利な社会について考えるだろう。将来こんな大きな土木構造物を作りたい、地図に残る仕事をしてみたいと思うかもしれない。図画コンクールは、「土木」について考えるきっかけかもしれないが、具体的な効果は数年先に出てくるものであり、計り知れない効果があると言えるのである。

9. 土木技術者への効果

2017年度の表彰式では、当時の田代民治土木学会会長が出席し、山陽本線の上を二重に平行して走る山陽新幹線高架橋を描いた優秀作品を見て、「あれっこれは、自分が43年前に作ったあの高架橋じゃないか!と気づいたときは、とてもうれしかった。」と挨拶された。土木技術者として手がけられたものを、子どもたちが絵に描くことは、とても勇気づけられるし、喜びにも感じられるのではないかと思う。また、「父がつくる港湾施設」と題して、大きなクレーンで大型船にコンテナを積み入れる様子を描いた絵では、娘が父親の仕事を題材にして描いており、作品を見た父親の気持ちは最高にうれしいと思う。

図画3：ぼくの家から見える高架橋

図画4：父がつくる港湾施設

10. 今後の課題と展望

当初の計画で10年は継続したいとしてきたが、ようやく2017年度に10年を迎えた。はじめは、広島県内だけの実施でしたが、中国5県に広報エリアを広げ現在

に至っている。中国 5 県から図画の募集をしているとはいえ、山陰地方からの応募がまだ少ない状況だ。これからは、広報活動をさらに続け、各地で展示会を実施できるよう取り組みたいと思う。そして、2018 年度

も素敵な作品に会えることを期待して、たくさんの子どもたちが将来土木技術者になってくれることを夢見、これからも図画コンクールを継続していきたいと考えるのである。

表 1：実施スケジュール（2017 年度）

3月	幹事会にて行事申請
5月	各教育委員会等に後援申請
6月	各教育委員会等から後援許可 チラシの作成・印刷 各教育委員会へチラシ配布依頼申請 各教育委員会へチラシの配布
7月	個別でのチラシ発送
9月	応募締切：平成 29 年 9 月 15 日（金） 応募作品の整理
10月	審査会 日時：平成 29 年 10 月 2 日 場所：広島市内の小学校 入選者の確認（各学校） 賞状の作成 優秀作品のカレンダーの作成・印刷
11月 ～3月	表彰式（優秀賞） 日時：平成 29 年 11 月 19 日 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 展示（優秀賞・佳作） 期間：平成 29 年 11 月 13 日～22 日 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 表彰式（優秀賞・鳥取県入賞者） 日時：平成 29 年 12 月 17 日 場所：イオンモール鳥取北 展示（優秀賞・佳作：鳥取県・島根県） 期間：平成 29 年 12 月 13 日～22 日 場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 展示（優秀賞・佳作） 期間：平成 29 年 12 月 20 日～1 月 19 日 場所：土木学会本部 展示（優秀賞・佳作） 期間：平成 30 年 1 月 23 日～3 月 11 日 場所：広島県立図書館 展示（優秀賞・佳作：山口県） 期間：平成 30 年 3 月 14 日～3 月 26 日 場所：中国電力(株)柳井発電所
1月	理事会にて行事紹介・カレンダーの配布
3月	幹事会にて行事報告 各教育委員会等に後援報告 幹事会にて次年度の行事申請

（参考文献）日比野忠史著：身近な土木を描いてみよう！
～土木に対する正しい認識を子供たちに伝える企画～
（2010 年度土木学会中国支部研究発表会）



図 2：図画コンクール応募チラシ

(枚) 図 1：図画コンクール 応募枚数の推移

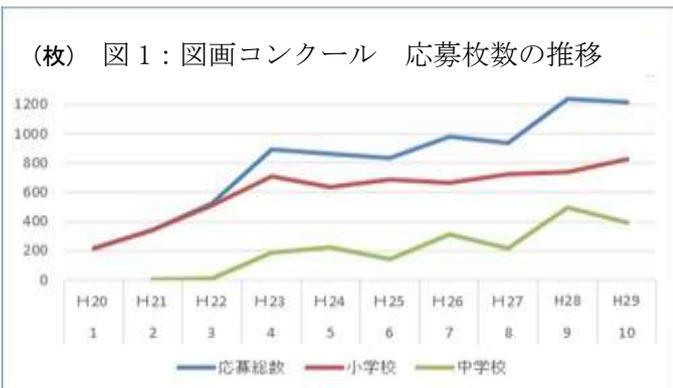


写真 1：優秀作品カレンダー10年分



写真 2：2017 年度表彰式（広島市まちづくり交流プラザ） 写真 3：2017 年度展示（広島市まちづくり交流プラザ）



図画 1：楽しいぼくの町



図画 2：ぼくたちみんなのほうふえき



図画 3：ぼくの家から見える高架橋



図画 4：父がつくる港湾施設

謝辞： 図画コンクールの審査会は、広島県造形教育連盟や広島県・広島市小学校教育研究会図画工作部会に所属する校長先生方の多大なご協力により実施されております。ここに記し、謝意を表します。